

令和7年度病害虫発生予察注意報第2号

令和7年5月23日

岐阜県

作物名 果樹（ナシ、モモ、カキ、リンゴ、ミカン等）

病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ越冬世代成虫）

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 5月下旬～7月下旬

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- （1）チャバネアオカメムシの越冬量調査で、越冬成虫数の平均は1.4頭/落葉50Lで、平年の平均0.9頭に比べ約1.6倍と多かった（表1）。
- （2）美濃加茂市の予察灯ではチャバネアオカメムシとツヤアオカメムシ、高山市ではチャバネアオカメムシの誘殺数が5月第4半旬に急増した（図1、2、3）。
- （3）チャバネアオカメムシの予察灯での誘殺数の累計は、岐阜市97頭（平年比約4.9倍）美濃加茂市429頭（平年比約7.0倍）、フェロモントラップでは岐阜市115頭（平年比2.0倍）美濃加茂市100頭（平年比約1.8倍）と、平年に比べ多い。
- （4）果樹カメムシ類によるサクラ果実の吸汁果率は、岐阜市62.9%、池田町69.0%、美濃加茂市80.0%で、果樹園への飛来の目安となる80%と同等または近い値となっている（表2）。
- （5）一部のナシ園、モモ園で飛来が確認されており、気温の上昇とともに飛来する園が多くなる可能性が高い。

5 防除上の注意事項

- （1）果樹カメムシ類の被害の発生には地域差や園地差があるので、園内へ飛来を確認したら防除を実施する。なお、薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- （2）果樹カメムシ類の飛来は夜温及び湿度が高く、風の弱い日に多くなるので注意する。
- （3）防除に当たっては、周辺環境、気象条件等に注意し、薬剤の飛散防止に努める。
- （4）農薬の使用にあたっては、最新の登録情報（<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム）を参照し、適正に使用する。

表 1 チャバネアオカメムシ越冬量調査結果

(調査時期：令和 7 年 2 月)

調査年度		R 6	平年	R 5	R 4	R 3	R 2	R元	H30	H29	H28	H27	H26
調査場所													
岐阜市	東秋沢	2	0.6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0
	彦坂川南	1	0.3	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
海津市	南濃町奥条	5	0.9	0	0	0	0	6	0	0	0	1	2
大野町	牛洞	0	0.3	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0
本巣市	法林寺	0	0.3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
美濃市	曾代	1	1.9	2	0.5	0	1	5	3	1	3	4	0
美濃加茂市	山之上西洞	2	1.6	2	0.9	1.3	0	7	0.5	0	1	1	2
	山之上中之番	1	1.5	3	0	0	0	8	1	0	1	2	0
中津川市	落合	0	0.1	0	0.3	0	0	0	0	1	0	0	0
	阿木	2	1.3	6	0.8	2	0.5	0	2	0	0	0	2
恵那市	武並	5	—	19	0	1	0	3	3	—	—	—	—
平均		1.4	0.9	3.0	0.3	0.5	0.1	3.5	0.9	0.3	0.5	0.9	0.6

・調査地点 1 カ所あたり 50L の落葉を採取し、ハンドソーティングにより調査

・R6 の越冬量は、恵那市武並の調査データを除く 10 地点の平均

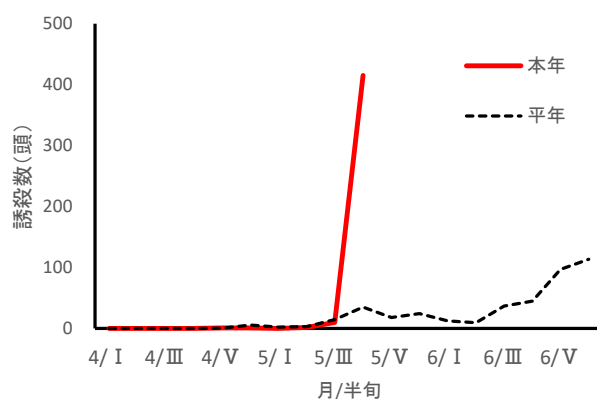
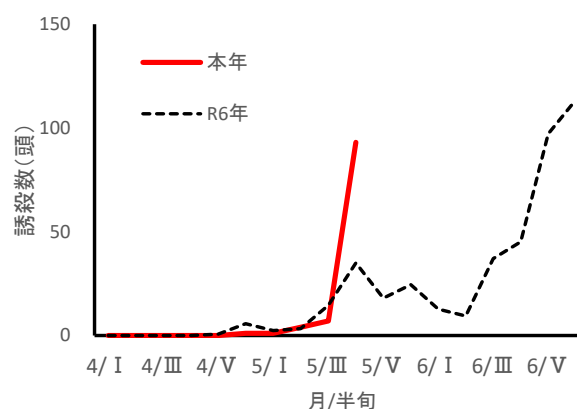
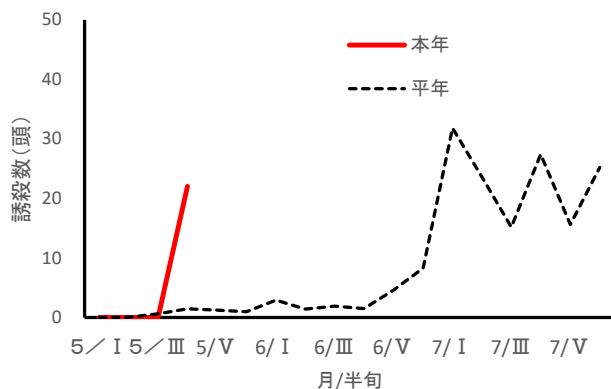
図1 予察灯でのチャバネアオカメムシ誘殺数
(美濃加茂市 山之上町)図2 予察灯でのツヤアオカメムシ誘殺数
(美濃加茂市 山之上町)図3 予察灯でのチャバネアオカメムシ誘殺数
(高山市国府町)

表 2 サクラ果実の吸汁果率(%)

	令和7年	平年
岐阜市	62.9	50.9
池田町	69.0	43.7
美濃加茂市	80.0	38.3
美濃市	40.0	57.2

岐阜市と池田町は5/15、美濃加茂市と美濃市は5/16に調査。

平年値は過去10年の5月中旬に調査したデータを示す